

多様な人が働き続けられる環境を

男性保育士の交流図る 山本慎介さん(43)

女性が圧倒的に多い保育士の職場。男性も増えてきてはいるものの、職場に同性が少ないことから、さまざまに壁にぶつかるとも少なくない。「東京男性保育者連絡会(東京男保連)」は、都内に点在する男性保育士の交流を図ったり、相談に乗ったりしてきた。東京男保連の事務局長で、わかたけかなえ保育園(板橋区)園長の山本慎介さん(43)は「男性保育士が働き続けられる環境を作りたい」と話す。

り、環境の整備は進んでいるものの、男性保育士がいなかったり、1、2人だけだったりする職場も珍しくない。男性だからと力仕事や豪快な遊びを期待されて戸惑う人や、人数が少ないため、ほかの男性保育士と能力を比較されやすく、悩むケースもあるという。

■適性を見る

山本さんは系列の保育園で事務職としてスタートし、視野を広げたいと思う中で、インターネットで東京男保連を見つけた。連絡を取り合うようになり、約1年後には事務局の仕事を担当するようになった。

「デイズニランドに行きたいな」「園長先生の車に乗ってみたい」
昼食時、わかたけかなえ保育園の3〜5歳児の教室には、園児らの元気な声が響いた。

TOKYO まち・ひと 物語

た。クラスを受け持つ保育士の森翔太郎さん(28)は、表情豊かに子供たちの話に耳を傾けた。

保育士の仕事は、子供の心身の健やかな成長を促すことをはじめ、衛生・安全管理や、家庭や地域社会との連携など多岐にわたる。森さんは「努力を続け、仕事で忙しくても充実した子育てができるよう、各家庭を支援していきたい」と生き生きと話す。

■人数が少なく

山本さんによると、保育士資格はかつて保育資格という名称で、男性は取得できな

った。昭和52年に男性の資格取得が認められ、資格の名称が「保育士」に改称されたのは平成11年になってからだ。少しずつ人数は増えてお

一方、山本さんは「子供にとって、保育園は初めての経験する小さな社会」とした上で、「世の中にはいろいろな人がいるので、小さな社会の中にも極力、多様な人がいることが大事だと思う。男性も



昼食の時間に園児らと触れ合う山本慎介さん(左)と森翔太郎さん(右)
—板橋区わかたけかなえ保育園

園長職を6年務めた後、23年にわかたけかなえ保育園を開園。「男女分け隔てなく募集して採用しているが、全体の総数が少ないので職員数に男女差は出てしまう」といい、現在は女性保育士18人に対して、4人の男性保育士が在籍している。

山本さんが心がけているのは、「仕事をすることで男性だから、女性だからということ、極力考えない」ということ。「職員一人一人の適性を丁寧に見ることが大事だ」と強調する。

山本さんの最終的な目標は、東京男保連がなくなることに。男性保育士は「男性だから力が強いはず」といったような固定観念に悩むことが少なくないが、「多様な人がいることが当たり前な社会になれば、東京男保連は必要とされなくなる」と考えるからだ。

「男性保育士が増えていけばよいと思う。そして今働いている人たちが、きちんと働き続けられる環境を作ってほしい」。山本さんはそうほほ笑んだ。